

2018年6月23日

この度、地震の災害に合われた方々には、心よりお見舞い申し上げます。

6月18日、当日は、ちょうど花のセリをしている真っ最中に「ド、ド、ド、ドーン」と下から突き上げるような、大きな物音がし、何事が起きたのかと思った瞬間に横に揺れだしたのでこれは地震だ！！ときずき、身構えるも何もする事が出来ず、天井を見上げるのみ。

「セリ」をしている会場は1000名ちかくが座れる広さがあり、見通しの良いように、柱は全然ないので、いつ天井が落ちてきても不思議でないところなのに、次のセリが再開されるまでの30分くらいの間、ほとんどの人はそのままの席で座って待っておられました。

が私は、昔からの教えに従って、トイレにすぐに駆け込み再開されるまで、トイレに座っていました。

すぐに連絡しても携帯から、通話はできなかつたのですが、メールでは連絡を取る事が出来たので、店の状況や従業員、家族の安否を確かめました。メールや通話ができるようになると、あちこちの親戚、友達、知り合いからどんどん連絡が入り、無事を伝えるだけでもかなりの時間を要しました。

帰る時もノロノロ運転で、いつもの倍近く2時間30分ぐらいかかりました。

午後、店の手配が落ちついたところで、独り住まいをされているお客様やご近所方々に、店のものと、手分けをして「どうもなかつたですか？」「困っておられないですか？」と尋ねて回りました。お陰様でみなさんご無事でなによりでした。

ただ、Aさんのお家では電気がつかないし、携帯も充電することができず、「近所付き合いも無いので」とオロオロして困っておられたご様子。

地震の振動で、電気のブレーカーが落ちて通じていなかっただけで、ブレーカーを元の状態に戻すだけで、解決しました。

Bさんのお宅も、同じようなことでガスの元栓が異常を感知したときに、元のコックが閉まるようになっていたために、ガスが出なくて炊事や風呂が沸かせない状態でした。

これも難なく解決してそれぞれに喜んでいただきました。

余震が続き、家族のおられる方でも不安な状況の中、独り暮らしをなさっておられる方はなおさらの事。20日以降も2回目の巡回をするように指示しております。

皆さんもお近くの方がたに少しでも多く、御声掛けをしていただけると、有り難いです。

「その声に、ホット安心、顔ゆるむ」

2018年6月23日

西井 忠義

7月の言葉

6月の中旬の夕方5時半ごろに、子雀が店に迷い込んできました。

「チュンチュン」「チュウンチュン」と蛍光灯の上の笠やキイパーの上、陳列棚の上とせわしげに飛び回っています。

ガラス戸を全開にして、飛び出しやすいようにして見守っているのですが、なかなかうまく出ていけない様子「焼き鳥にするぞ！！」と脅しをかけても子雀には通じません。そこへ、私の声を聞きつけたか、親雀が「チ、チ」「チ、チ」と表の入り口から呼びにきました。

子雀はうまく呼応できないらしく、先ほどと同じ行動を繰り返すのみで、なかなか出ていきません。

6時半ごろになり「もうじき閉店やからね。」と声をかけ、仕方なく店の子たち3人で店の中の電気を全部消し、箒の先で優しく追い立てると、薄暗くなりかけた歩道の方へ飛び出してくれました。

小林一茶の「すずめのこ そこのけそこのけ お馬が通る」

加賀千代の「朝顔に 釣瓶とられて もらいみず」

優しい心持がよく伝わります。

学校で花の苗の植替えを生徒と一緒にするときがあるのですが、乱暴に首根っこ掴んで引き抜こうとする子を見ると「人間の赤ちゃんと一緒にだから、指と指の間に苗を挟んで、逆さにすると苗は簡単に手のひらの上に乗るので、優しく丁寧に、苗が水平になる様に植えてね」と説明しています。

このように植物も含め、生きている物全てに思いやりを持って、優しく接する心を持ってもらうほうが、苗を植える手順を覚えてもらうより、もっともっと大切な事と感じ取っていただいています。

2018年6月下旬 西井 忠義

